

<学校名> 白岡市立南小学校  
<所在地> 白岡市小久喜 524-1  
<電話> 0480-92-5642

<本事例の特徴>

本校では、英語補助員（JET）やALTとともに全学年が外国語活動や国際理解教育を行っている。また、学校応援団や中学校に在籍しているALTを生かした国際理解教育の取組について紹介する。

<具体的な取組や成果>

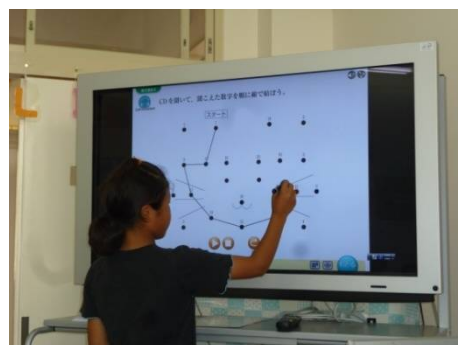
○英語補助員（JET）やALTの活用



白岡市では、英語活動補助員は35時間、ALTは年3回の約2カ月間、担任の補助として授業に入っている。英語を母国語にしているALTや、英語に堪能な英語活動補助員が授業に必ず入ることで、児童はネイティブの英語の音声に触れることができる。授業中は、担任と英語活動補助員、もしくは担任とALTにより、基本的な表現を用いたデモンストレーションを児童に見せている。また、なかなか基本的な表現を言えない児童にも、細やかに支援することができている。そのため、外国語活動を苦手だと感じている児童も、基本的な表現に慣れ親しむことができた。更に、機会をとらえて母国や留学先の国の文化を児童に話してもらうこともでき、外国の文化に対する理解を深めることもできた。

○設備・教材の整備

外国語活動を行うための教室として国際理解室があり、基本的にはこの教室で児童は活動している。国際理解室には、タッチパネルのついた大型テレビ、パソコン、CDデッキ、ビデオデッキが設置されており、教育機器は充実している。また、各教室のパソコンにもデジタル教科書がインストールされており、国際理解室と同じように教室でも授業ができる環境となっている。



○学校応援団や中学校在籍のALTを活用した国際理解教育

5年生の総合的な学習の時間には、学校応援団に登録されている地域の方を招き、世界各国の食べ物などを紹介してもらった。オーストラリアでよく食べられているベジマイトを持参していただき、後日全員で試食をした。

中学校に在籍しているALTも招き、出身国であるインドや留学先のカナダなどを紹介してもらった。写真による紹介だけでなく、実際に民族衣装も着させてもらい、児童の関心を高めることができた。さまざまな経験をしている方達に世界の国々の話をしてもらうことで、児童の関心も高まった。